

## 論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (教育学)	氏名	MOUSUMI MANJUMA AKHTAR
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
The Rise of Private School Markets and Parental Choice: Cases from Dhaka, Bangladesh and Delhi, India			
論文審査担当者			
主 査	広島大学大学院国際協力研究科	准教授	日下部達哉 印
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	教授	吉田 和浩
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	教授	石田 洋子
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	准教授	櫻井 里穂
審査委員	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	外川 昌彦
〔論文審査の要旨〕			
<p>当該学位論文は、近年、南アジアで隆盛を誇るイングリッシュ・ミディアム・スクール(以下 EMS)、とりわけ私立 EMS について、その市場メカニズムと、両親における学校選択の在り方について、フィールドワークに基づくデータの比較分析を通じて研究した。同じ EMS 市場であっても、両国の言語をめぐる歴史的経緯、保護者、生徒、またコミュニティが EMS に求めるアウトカム、EMS 側の市場参入論理等、多角的視点から総合、同じ南アジアの EMS でもその生成・成立論理が全く異なっており、バングラデシュのダッカでは主としてエリート層の地位保全のため、インドのデリーでは主としてマイノリティ・グループの社会的地位向上のため機能していることという特徴、さらに双方とも EMS においては、統制的な教育市場というよりも自由市場性が高く、教育内容が保護者の学校選択における選好性を明らかに意識したもので、多彩な経営戦略が存在しているという共通性も明らかにした。</p> <p>論文は、全9章で構成されている。第1章において本研究の概要、目的、意義、分析枠組みを述べた。インドとバングラデシュにおける EMS の歴史と現状、政治的背景、教育制度を概観したうえで、保護者と学校との需給関係を中心とした、南アジアにおいて未だ明らかにはなっていない EMS のマーケットトレンドを明らかにすることを目的とした。第2章では、両国の教育制度の特徴と、それに基づくコンテキストを描いた。第3章では、学校選択のキーコンセプトとしての新制度理論について検討を行った。第4章では、方法論を検討し、比較研究の手法を用いることを説明した。第5章では、ダッカにおける学校データの分析、第6章では、ダッカにおける世帯レベルのデータを分析した。第7章では、デリーにおける学校データの分析、第8章では、デリーにおける世帯レベルのデータを分析した。そして第9章では、結論として上記の通り、比較分析を通じた両国のマーケットトレンドを明らかにした。</p> <p>本論文は、以下の諸点が独創性の高い点として評価された。(1) これまで、明確ではなかった南アジア二か国の EMS の市場性の特徴を先行研究、歴史的経緯を含めて明らかにし、(2)比較の枠組みに基づき、保護者・生徒や学校といったミクロレベルの視点から質的な研究を行ったこと、の2点である。</p>			

申請者はこれまで、査読つき論文 2 編、査読無し論文 3 編、国内外での学会、会議において 5 編を公表した。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。